

『大学と連携した持続力ある楽しい地域づくり』

宿利原地区公民館（錦江町）
協働団体：鹿児島純心女子短期大学

背 景

錦江町の北部に位置し、11自治会からなる宿利原地区は、平成20年に中学校が統合され、現在は小学生11名の少子・高齢化の進む中山間地域である。

農業面では、標高200mの立地を活かした干し大根の生産やさつまいも・葉タバコなど、農業が盛んな地区である。

宿利原地区では、夏祭りや運動会など地域住民が楽しめる地域づくりをモットーに様々な活動を行っており、中学校統合の翌年からは、新たに公民館講座や地域を広くPRする大根やぐらライトアップイベントを行い、産業と地域が一体となった活動を行っている。

この干し大根を地域の自主財源の確保、生きがいづくりにつなげようと鹿児島純心女子短期大学と連携し、自分の好みでトッピングができ、漬物を作る楽しみが味わえる「マイ壺漬けセット」の開発に取り組んだ。

②地域を担う女性部の育成

公民館内の婦人部では、会員が減少する傾向であったため、新たに年齢制限を無くし、地域全員の女性が参加できる「女性部」を結成し、加工施設の利用研修会やピクルス作り、健康体操教室や先進地研修などを行い、ふれあいの場づくりや加工品の開発に取り組んだ。



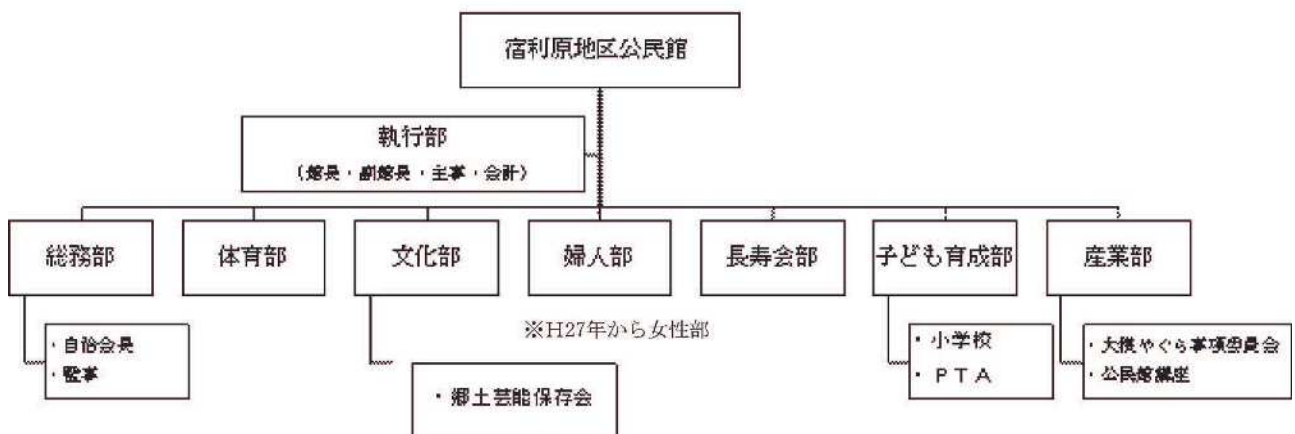
新たな組織「女性部」の発足

活 動 内 容

①地域農産物を活用した加工品の開発

錦江町の特産である干し大根は、桜島の大正噴火の際、桜島からの移住者によって伝わったものである。

組織体制図





他地区への先進地研修

③地域の伝統芸能継承

宿利原地区には、男性の棒踊りと女性の薩女踊りの伝統芸能があり、これまで伝統芸能保存会と小学生が伝承してきたが、少子化により正式な踊りが途絶えつつあった。

そこで、地区公民館が主体となり新たに夏祭りや文化祭などで踊りを披露するなど、踊り手の確保に取り組んだ。



棒踊りの練習風景

共生・協働の状況

鹿児島純心女子短期大学と共同で、「自分の好みでトッピングや漬物を作る楽しみが味わえる」をコンセプトにした「マイ壺漬けセット」の商品企画を行った。

学園祭や宿利原大根やぐらライトアップイベントなど相互の活動に参加し、お互いの状況を

確認しながら商品化に向けた活動を進めた。

ラベルは、地域の伝統芸能でもある薩女踊りをモチーフにしたデザインが完成し、2月には鹿児島市の大型ショッピングセンターで「マイ壺漬けセット」の試食・販売により消費者の反応をつかんだ。



壺漬けの企画・販売方法の検討会の様子

成 果

①加工品開発と食文化の継承

地区公民館女性部と鹿児島純心女子短期大学と協働で取り組んだ干し大根の漬物づくりを通して、住民自らが改めて伝統食を見直し、高齢者による地域住民へ食の伝承講座を開催するなど、伝統料理を次世代へ引き次ぐ取り組みに発展した。



学園祭での試作販売&交流会

②女性部の育成による組織の活性化

これまでの婦人会を再編して、年齢制限をなくし、幅広く参加を呼びかけたことにより、従来より平均年齢が若い組織となり、組織体制の強化につながるとともに高齢者の持つ食の技術が若い世代に伝承されるなど組織の活性化が図られた。



高齢者から食文化を伝承

③地域の伝統芸能継承

地域の夏祭りや町の文化祭などで伝統芸能を披露したことにより、これまで途絶えていた歌い手の復活や子供たちと地域住民との交流が深まり、地域への愛郷心を深めることができた。

今後の展望

宿利原地区公民館では、中学校の統廃合をきっかけに①交流の場づくり、②自信と誇りの持てる楽しい場づくり、③地域の魅力を発揮しながら持続力ある場づくりの3つの柱をもとに地域づくりを行い、公民館主催で夏祭りや公民館講座、大根やぐらライトアップイベントなどを行ってきた。

今回、地域農業の維持・発展に向けた地域農産物を活用した加工品開発に取り組み、地区をPRするとともに、新たな雇用や財源の確保へ踏み出すことができた。

今後、加工施設を活用し地域の農産物や加工品を販売し、高齢者や地域住民の雇用の場ができるよう展開し、持続性のある楽しい地域づくりに取り組んでいきたい。

リーダーの感想

宿利原地区公民館
館長 厚ヶ瀬 博文 氏



今回の活動で新たな女性部組織ができ、地域活動に参加しやすい体制ができました。

この女性部が中心となり純心短大との協働で、特産品である干し大根を活用した加工品の開発・販売ができました。

今後、地域の新たな特産品として、地域内経済の活性化につなげたいと思います。

高齢者や地域住民が生きがいを持って楽しい田舎暮らしができるよう地域みんなで行ってまいります。

鹿児島純心女子短期大学から

むらづくりに携わった感想

平成26年3月、錦江町と鹿児島純心女子短期大学（以下本学）との間で「包括連携協定」を締結し、錦江町が目指す町の振興・活性化の事業を本学の教育・研究資源を活用して全学的・組織的に支援することになりました。

それ以来本当に多くの共同事業に取り組む中で、錦江町の皆様の地域おこしへの情熱を肌身で感じています。



加工品開発の打ち合わせ

また、本学の学生の教育や研究にとっても大変大きな実りをもたらしています。

2月6日（土）～21日（日）、オプシァミスミで開催した「錦江町チャレンジショップ」では、現代ビジネスコースの学生4名のインターンシップ（職場体験学習）とボランティアの学生も多数受け入れていただき感謝する次第です。

学生たちは干し大根の壺漬けセットのラベルデザインや味見などの企画の段階から関わり、また実際販売に携ることで就業の面白さややりがい十二分に学んでくれることと思います。

また、錦江町と本学との包括連携事業の数々をパネル展示等によって多くの一般市民の方々に知っていただく機会を得たことも大変意義深いことと思います。



錦江町チャレンジショップでの販売PR

今後ともインターンシップやボランティア活動等を通して、地域社会との交流体験に根ざした実践的な教育の機会を学生たちに提供していきたいと思ひます。

高度な就業力を備えた「逞しい女性」の育成を目指す本学の教育へのご支援ご協力の程、よろしくお願ひいたします。

団 体 の 概 要

- 団体名 鹿児島純心女子短期大学
- 所在地 鹿児島市唐湊4丁目22-1
- 連絡先 099-253-2677
- HP www.k-jyunshin.ac.jp

地 区 の 情 報

構成集落（11自治会）

宿利原，笑喜上，笑喜下，落河，大尾，岩元，才原，牧原，命苦，協和，厚ヶ瀬

人口構成

- （1）総人口 503人
（65歳以上の割合 50.2%）
- （2）総世帯数 252戸
（うち農家戸数 182戸）

耕地面積 192ha

主要作物

葉たばこ，干し大根，さつまいも
生姜，肉用牛

問い合わせ先

錦江町産業振興課

電話番号：0994(22)3036

大隅地域振興局農林水産部農政普及課

電話番号：0994(52)2142

『古代米「赤米」と年中行事の伝承でむらづくり』

荃永地区公民館（南種子町）

協働団体：NPO法人食育研究会 楽しく料理教室

背 景

荃永地区は、南種子町の南東部に位置し、水田地帯を主とする農村である。地区内には世界で最も美しいと言われるロケット発射基地「種子島宇宙センター」がある。また、全国で三か所のみで伝承されている古代米「赤米」の里でもある。

地区内にある宝満神社には、祭神「玉依姫（たまよりひめ）」が竜宮より赤米の種を持ち帰り、種子島で稲作を始めたと言われる赤米伝説が残っており、神社の近くの神田でのみ栽培されている。

地域の伝統行事として、福祭文（くさいもん）、蚕舞（カーゴーマー）、願成就祭（九月踊り）、お田植え祭りなど脈々と受け継がれてきた伝統文化の継承に地区全体で取り組んでいる。



受け継がれる伝統芸能

また、平成26年度には、国内の赤米生産地である荃永地区と長崎県対馬市、岡山県総社市の赤米伝承団体が集まり『赤米サミット2014 in くきなが』を開催し、古代米・赤米の伝承保存活動の共同宣言を行うことにより、赤米への住民や期待も高まっていた。



赤米サミット2014 in くきなが

このような中、恵まれた立地条件をフルに活用し、地域農業を発展させるためには、地域の特産品開発・販売や伝承活動の観光化、地域を担う人材育成が不可欠と考え、赤米を核としたむらづくり活動に取り組んだ。

活 動 内 容

①「赤米」を活用した特産品の開発

郷土に伝わる赤米はこれまで門外不出で観光資源化もできなかったが、宝満神社神事米の血を継ぐ交配種「たまより姫」を活用した特産品の開発に取り組んだ。

加工活動を担う組織として、地域の女性を中心に『むらづくり委員会』を結成し、赤米や地域食材をもとに郷土料理の新たな調理方法の学習を行い、赤米と地元産コシヒカリを混合したつのまきを試作した。



←↑赤米を使った
つのまきの試作

このつのまきを地区の球技大会の際、競技会場に特設展示を設けて紹介し、地域住民に味わってもらおうなど発表の場を作った。

②水稲栽培に関わる年中行事の伝承活動

地域子ども・青少年とともに「宝満神社の御田植え祭り」の伝承活動に取り組んだ。

また、御田植え祭りのぼり旗を作成し、会場周辺や宝満神社参道、地区内に立て、地域住民や観光客などへの啓発を行った。



御田植え祭り

その他、正月行事の福祭文や地域探訪、餅つき大会などに取り組み、青年団による蚕舞などの伝統行事への支援を行った。



地域行事の伝承～餅つき大会～

共生・協働の状況

加工グループ『むらづくり委員会』が中心となり、NPO法人「食育研究会らく楽料理教室」との協働で、赤米や地域食材をもとに郷土料理の新たな調理方法を習得し、地元産コシヒカリと「たまより姫」の赤飯や郷土料理「つのまき」への活用、地元産の魚を使った「押し寿司」の試作も行った。

むらづくり委員会を主体に、公民館婦人部と連携し、新たな地域食材の発掘や、食文化の継承に取り組んでいる。



NPO法人食育研究会らく楽料理教室
榎木春幸氏による実技指導



地魚を使った棒寿司

成 果

①特産品開発と公民館組織の活性化

赤米を郷土料理に活用するなど赤米の色や成分などの特性を生かした新たな活用方法に気付くことができた。

また、これらの活動をとおして、加工を担う組織「むらづくり委員会」が結成され、組織活動をとおしてリーダーが育成されるとともに、地域活性化への環境整備が進んだ。

②水稲栽培に関わる年中行事の伝承活動

宝満神社で行われる秋の収穫祭（願成就祭）、宝満神社神楽保存会、千石村などの活動を一元化し、効率的・効果的に進めることができ、地域みんなで取り組むことで住民のまとまりが強まった。

今 後 の 展 望

近い将来の高齢者比率4割の時代を見据えて「住んでよし、訪れてよし」の地域づくりを継続し、世代間の交流を目指す。

このため、赤米保存会・宝満神社神楽保存会・千石村の活動と伝統芸能や様々な伝承活動の一元化することができた。

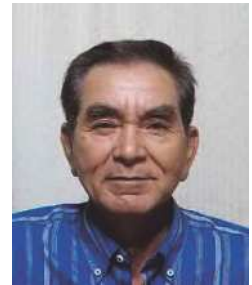
今後は、農業と観光の連携により、地域活動のイベント化など地域おこしに取り組んでいく。

また、郷土料理に赤米を活用するなど、赤米の新たな利用法へのアイデアをもらい、新たな商品開発とともに、赤米のつのみき、押し寿司などの商品化に向けた加工技術の確立に向け、継続して取り組んでいく。

今後は、「集まれるときに集まり、活動できるときに活動する」を基本に地域みんなで継続して取り組める体制を整えながら、「地域貢献」を合言葉にむらづくり運動が展開できるよう、研修視察や情報収集に努めて活動を継続する。

リ ー ダ ー の 感 想

茎永地区自治公民館
館長 宮里 照夫氏



地域の活性化には女性の力が重要です。

むらづくり委員会の結成は、特産品づくりを進める中で、女性のもつ技術を生かす場となり、新たなリーダー育成につながりました。地域住民が、むらづくり活動を継続したいと思うためには、住民が活躍できる場の設定と10年後を見据えて地域を動かすリーダー存在が欠かせません。

一方で、高齢化が進む中、地域行事を一元化することにより、赤米を核に住民が一体となって効率的、効果的に様々な地域活動に取り組むこともできました。

今後も、恵まれた立地条件を最大限にいかしながら、地域みんなで共生・協働のむらづくりを継続して取り組んでいきます。

むらづくりに携わった感想

豊満神社に伝わる赤米伝説やこれに伴う御田植え祭りなどの伝統芸能など、茎永地区には、食と農に関わる様々な取組が古くから受け継がれている地域です。

たまより姫が持ち帰り、種子島で稲作栽培をはじめたという赤米伝説にちなみ、「赤米とアジの棒寿司」、「甘酒を使ったつけあげ」、「赤米粉入り安納いも団子」など、赤米のもつストーリーや鮮やかな色彩、アントシアンなどの豊富な栄養価を活かした料理づくりを行いました。

新たな食べ方や販売方法など、赤米は、様々な可能性を十分秘めている食材であり、茎永の伝統芸能と併せて、様々な機会を利用し、赤米をPRしていただきたいと思えます

茎永地区はロケット打ち上げ基地を近くに抱え、観光客も多い地域です。これらの立地条件を十分に活かして、様々な機関や団体と連携し、島内外の観光客にもっと赤米をはじめとする地域の豊富な食と農を売り込んでほしいと思えます。

NPO法人食育研究会楽しく料理教室

理事長 榎木春幸

地域おこし団体の概要

○団体名 NPO法人食育研究会楽しく料理教室

○代表者名 榎木春幸

○所在地 加治木町木田2344番地4

○連絡先 0995-73-3812

○HP <http://rakuraku-cs.jp/>

○設立趣旨

24年間日本料理の世界で過ごす中、知る事の出来た『食』の素晴らしさ、大切さ、そして

現代食の危険性を1人でも多くの方に知って頂きたい。微力ながらも精一杯『正しい食』を届けたい。

○コンセプト

健康で明るい未来の為に、信念と正義感を持った活動を行っています。

- ・地産地消
- ・日本の食文化伝承
- ・化学調味料・添加物・防腐剤・農薬の摂取濃度減少

○主な取組内容

- ・食品加工（灰干し、ほっけごて、塩麴）
- ・さつまの宝ショップの運営
- ・食育に関する講演
- ・商品開発
- ・料理教室の実施

地区の情報

構成集落

上里、新上里、菅原、雨田、中部、宇都浦、仲之町、松原、阿多惜経、竹崎(10集落)

人口構成

- (1) 総人口 455人
(65歳以上の割合 33%)
- (2) 総世帯数 255戸
(うち農家戸数 81戸)

耕地面積：194.5ha

主要作物

早期水稲、マメ類、かぼちゃ、らっきょう、さとうきび、レザーリーフファン

問い合わせ先

南種子町総合農政課

電話番号：0997(26)1111(代)

熊毛支庁農林水産部農政普及課

電話番号：0997(22)0044

『I・Uターン者と取り組む地域経済の活性化』

阿室校区活性化対策委員会（宇検村）
協働団体：NPO法人環境教育推進協議会

背 景

阿室校区は、奄美大島の南西部に位置し、たんかんや露地野菜を基幹作物とする地域である。

平成7年に設立された「平田たんかん生産組合（17名）」では、地域の基幹作物としてたんかんの生産に取り組んできたが、高齢化が進み、産地の維持が危ぶまれていた。

このような中、校区の農産物や加工品は、平成23年度に開設された農産物直売所「うけん市場」にも出荷され、購入者から寄せられる声が生産意欲の向上に繋がっている。

高齢化・過疎化が進む中、学校存続に危機感を持った住民で平成20年に結成された本委員会では、I・Uターンの親子の受入れや住宅・就職先の確保など体制整備を進めてきた。この取組に地区内住民全戸が協力して月額100円を寄付するなど、現在では、20名の児童数を維持し、集落内から一時消えかけた子供達の声に戻ってきた。

このように、徐々に増加するI・Uターン者の新たな雇用・就労先となる農業の基盤強化に向けた農地の集積や農地保全の必要性が高まっていた。

そこで、地域農業の維持・活性化に向けて集落ぐるみで知恵を出し合い、持続可能な活動体制や営農環境を整えていくこととした。

活 動 内 容

①在来ニンニクの生産及び加工

高齢者の持つ加工技術の活用と伝統の継承や

農地の保全を目的として、在来ニンニクの栽培に集落ぐるみで取り組んだ。

②地域資源を活用した特産品開発

地域資源を掘り起こし、その価値を評価しながら地域農産物を活用した加工品づくりに取り組んだ。平成27年には、コミュニティビジネスに意欲のあるIターン女性3名で合同会社「あおぼとカンパニー」を設立した。



地域食材資源の掘起こし検討会

③たんかん生産に向けた労力補完体制づくり

高齢化により校区内の廃園が増加し、さらに今後も離農が予想されることから、園地の貸し借りや、規模拡大を志向する担い手農家への農地集約が図られるよう、阿室校区活性化対策委員会が中心となって検討を重ね、I・Uターン者や担い手農家による共同防除班を平成26年度に設立した。

④耕作放棄地の解消

耕作放棄地の解消に向けて、景観形成やミツバチの蜜源として条件不利地でのソバ栽培に取



農地再生後にソバを栽培
り組んだ。

④子どもから高齢者が参加する地域活動

地域住民を招いたたんかんの収穫体験イベントを実施し、児童から高齢者まで地域みんなが参加する集落行事となっている。

共生・協働の状況

NPO法人環境教育推進協議会と連携し、ニンクやたんかん、ボタンボウフウなどを活用したジャムや粉末等の商品化に向けた検討をすすめ、パッケージづくりにも取り組んだ。

また、農協観光と連携して、農業体験を観光メニューを組み合わせた「援農隊」を受け入れ、小さな農村集落ならではの都市農村交流体験メニューを模索している。

さらに、条件不利地の活用について検討を重ね、ソバ栽培による景観改善活動やサトウキビ収穫体験交流等を実施した。

成 果

①持続的な活動に向けた新たな体制整備

I・Uターン者の知恵や技術、労力等を取り入れ、新たな組織の結成や組織体制の強化により、過疎が進行する地域において持続的に発展できる体制が整い、様々な取組が発展し、地域

の活性化につながっている。

ア コミュニティビジネスに取り組む合同会社「アオバトカンパニー」の設立や基幹作物であるたんかんの産地維持を担う「共同防除班」の設置など、新たな活動体制が整備された。

これらの組織はI・Uターン者の存在が大きく、地域住民と移住者が地域農業を支える取組となっている。

イ 山村留学の取組によりI・Uターン者等の受入態勢が整備され、校区の児童数は7名から現在22名と増加した。そこで、受入体制を体制を強化し、山村留学をさらに推進するため、平成26年度から山村留学の手続き等を担う企画班、農業班に役割分担し協働体制を整えた。



阿室校区活性化対策委員会組織体制図

②農業による地域経済の活性化

高齢農家が主体であったニンクの生産・加工にIターン者が加わったことにより、一定量の生産が確保され、直売所等へ安定して供給できる体制ができた。

さらに、島外の企業との取引がはじまるなど、販路拡大が図られている。

また、地域の伝統野菜の加工技術の継承や新たな加工品の製造販売を行ううとともに、地域の高齢者が栽培した野菜を集荷して回り、村内の直売所「うけん市場」へ出荷するための集出荷作業の体制づくりができた。

これらの活動により、人にあげるか、廃棄していた農産物が換金されることによって高齢者の生産意欲向上、地域内での経済の活性化につながっている。



農産加工品の試作状況

さらに、結成されたたんかんの共同防除班が主体となり、防除作業だけではなく、せん定等の労力補完を行った結果、離農者等の園地が再生されるなど、耕作放棄地の防止につながった。

これらの取組は、離農予定の高齢農家のたんかん園を中心に実施され、I・Uターン者等の担い手農家に1.2haの農地が集積され、担い手農家の育成につながった。



耕作放棄地解消に向けた取組

④子どもから高齢者が参加する地域活動

児童を含めた地域活動としてたんかん収穫イベントを開催し、収穫作業の軽減だけでなく地域活動の活性化、子ども達への地域農業の理解促進が図られた。

また、ソバ植栽による景観改善活動やサトウキビ収穫体験交流等を実施し、交流人口が拡大するなど地域経済の活性化につながった。

今後の展望

阿室校区は、従来から様々な活動に対し、みんなで話し合いながら積極的に取り組む地域である。

今回、地域活動の新たな体制づくりや地域資源を生かした特産品開発、耕作放棄地の解消などに取り組む、更なる発展に向けて様々な知恵やアイデアが出された。

これらの実践に向けて、「すぐに取り組むことができ、早く効果が出る取組」と「時間を要する取組」とがあることから、中長期的なビジョンを立て、楽しく無理なく、計画的に活動を展開していきたい。

今後も、継続して農地の維持に向けた取り組みを進めるとともに、地域資源活用の検討を進め、集落全体で経済活動ができるよう発展させていきたい。

リーダーの感想

阿室校区活性化対策委員会
会長 盛宮 信治 氏



今回、I・Uターン者と地域住民が一体となり様々な取組を展開することにより地域の活気を取り戻したように思います。

これまでの持続的な取組により、阿室校区への親子山村留学の希望者が増え、本校区へのI・Uターン者は増加傾向にあります。

児童と子育て世代層が増えることにより、多様な意見がだされ、それを住民が受入れ、地域一帯となって取り組むことにより新たな取組に発展するなど地域の活性化が図られました。

I・Uターン希望者に対応する住宅の確保など、環境整備が追いついていない状況ですが、これからも、これらの活動を継続して行い、村やNPOと連携しながら次の世代に託せるむらづくりに取り組みたいと思います。



たんかん収穫体験活動

NPO法人環境教育推進協議会から

むらづくりに携わった感想

外から見ると有用な資源が地域にはたくさんあり、今回、阿室校区で取組を進め、ここならではの自然や食材、体験があるということ在地元の方々が理解し、様々な意見が出てきて、地区ぐるみで実践できたことが良かったと思う。

取組を進めるうちに、小さな農地でも、やり方次第で地域財源に還元できる可能性があるという意識が住民の方々に出てきたように感じています。

私達は、地域活性化を目的に、地域資源を商品化して都市部で販売したり、アグリツーリズム等の都市農村交流を行う取組において、コーディネーター的役割として支援したいと考えています。

当地域のように住民と行政が密に連携し、むらづくりを行っている事例は、他の地域にもモデルになると思います。

一方で、LCC参入で奄美大島に訪れる観光客も増えている状況であり、奄美ならではの観光プログラム（自然、食べ物、奄美に根付くお

もてなしの心や、地域産業の体験等）に、このような地域活動が活かされると期待しており、今後も支援していきたい。

NPO法人環境教育推進協議会
代表 大田 美紀

地域おこし団体の概要

- 団体名 特定非営利活動法人
環境教育推進協議会
- 代表者 大田 美紀
- 活動内容

広く一般市民に対して、環境および食農教育の啓発および推進に関する事業、環境教育における指導者の育成に関する事業を行うことにより、社会教育の推進と環境の保全を図り、広く公益に寄与することを目的に設立した組織。

むらづくりに関しては、東京農業大学と連携して地域資源の調査を行い、1次産業から6次産業への展開やアグリツーリズム等の交流活動について地域に提案し、実現に向けて支援していく活動を行っている。

地区の情報

構成集落 平田，阿室，屋鈍（3集落）

人口構成

(1) 総人口 233人
(65歳以上の割合 38.6%)

(2) 総世帯数 124戸
(うち農家戸数 69戸)

耕地面積 7.8ha

主要作物 たんかん，ニンニク

問い合わせ先

宇検村産業振興課

電話番号：0997(67)2211(代)

大島支庁農林水産部農政普及課

電話番号：0997(57)7265